学校だより

磨光

令和６年９月３日（火）
三豊市立本山小学校
No.９
発行者：中田　祐二

８月３０日の夕暮れ。教室を回りながら、子どもたちの工作や、２学期が始まるに当たって、担任が子どもたちに贈ろうと黒板に書いているメッセージを読んでいました。ふと、背面黒板に残された言葉が目に入りました。

「夏休みまで０日」。おそらく１学期の終業式の日に、その学年の子が書いたのでしょう。その日から 40 日余が過ぎ、９月２日に登校してきた子どもたちは、この言葉をどんな思いで見るのでしょう。できれば、夏休みを迎える時に負けないくらいのワクワク感をもって登校してきてくれたらいいな。

「いつか分かる日」を楽しみに

【佐野洋子 作・絵
『100 万回生きたねこ』(講談社)】

佐野洋子さんの絵本に、『百万回生きたねこ』というお話があります。

百万年生きたとらねこは、百万人の飼い主と出会い、百万回死別し、百万回生き返りました。とらねこは最後に、初めて「いつまでもいっしょにいたい」と思える白いねこと出会います。幸せな時を過ごしながらも時は経ち、やがて白いねこが亡くなってしまったとき、その隣で動かなくなってしまったとらねこは、決して生き返ることはなかった……。こういうお話です。

夏休み、このお話を読んで、ある子が読書感想文を書いてきました。

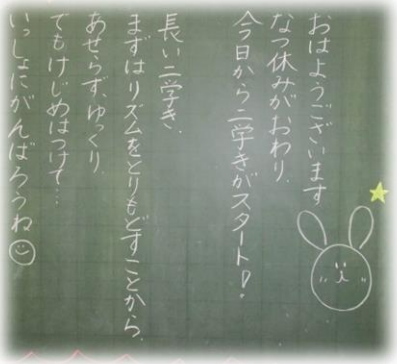
その子は、このお話の最後に、とらねこが二度と生き返らなかったのは「やっぱり、白いねこと、ずっと一緒にいたくて、一緒に天国に行ったのだと思う」と考えました。そして、お母さんにも「なんで生き返らなかったと思う？」と聞いてみたようです。

お母さんは、「とらねこには、初めて大切なものができたから、生き返らなかったのだと思う」「大切なものができると人は弱くなるんだよ」と言ってくれた。でも、その子は、お母さんの言っていることがよく分からなかった。分からずにいると、お母さんが「大人になったら分かるよ」と言ってくれました。

私は、読書を通したこの親子のやりとりと、「大人になったら分かるよ」という言葉が、とてもいいと思い、始業式で取り上げて話しました。

今は分からない。でも、いろんなことを勉強して、たくさんのうれしいことや楽しいこと、時には悲しいことや苦しいことも経験し、いろいろな友達や人とお話をしていれば、いつか自分の答えが見つかるかもしれない。きっとその時には、今よりも一回りも二回りも大きく成長しているだろうと。

勉強をしていれば「分からないこと」も出てきます。友達の気持ちが「分からなく」なることもあるでしょう。でも、「分からない」は、いつかきっと分かるようになる、あなたへのプレゼントなんだよ。子どもたちにそう伝えました。



時代はデジタル。０（ゼロ）か１か白黒を付け、処理能力の早い機器を持つことがステイタスになる時世。でも、ゆっくりと構えて未来の自分を楽しみにする。そんな心持ちもいいと思いませんか。

ある学年の黒板には、登校してくる子どもたちに、担任からこんなメッセージが贈られていました。

「長い二学き／まずはリズムをとりもどすことから／あせらず、ゆっくり／でもけじめはつけて／いっしょにがんばろうね」

あせらず、ゆっくり。２学期の始まりです。